



森と暮らす まちを育む 森とイエ

# 森とイエ 通信 Vol.24

「森とイエ」は  
地域の工務店と建築家が  
協働して  
これからの北海道らしい  
住宅を創造する  
プロジェクトです  
**企画・運営**  
森とイエ プロジェクト

## \*お問い合わせ\*

森とイエホームページの  
お問合せページより  
お願い致します

森とイエホームページ  
<http://moritoie.net/>



## column

先日、東京で、かねて  
より訪れたいと思って  
いた師匠の師匠が  
設計した代表作を  
見に行く機会を得ました。



約50年前に建てられた建物ながら、  
古びることなく力強く佇む姿に触れ、  
改めて自分の設計姿勢を見つめ直  
すきっかけとなりました。  
同じ建築家が同時期に手がけた住  
宅が京都にもあり、数年前に訪れた  
ことがあります。両者を思い返すと、  
同一人物の設計とは思えないほど作  
風に幅があり、建築という表現の奥  
深さをあらためて感じます。  
ここ数年は忙しさに追われ、建築を  
見に行く機会が減っていましたが、や  
はり実際に空間に身を置いて得られ  
る刺激は何にも代えがたいものです。  
今後は意識して時間をつくり、イン  
プットの機会を大切にしていきたいと  
思います。(野村)



2025.11.25

## 現場見学会報告



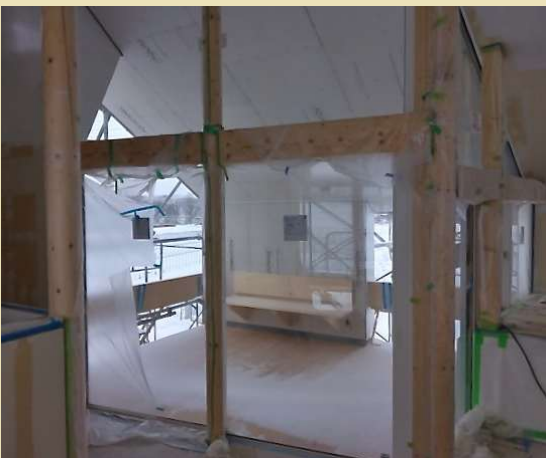
2025年9月3日(土)、森とイエにとって13棟目となる  
H-HOUSEの構造見学会が開催されました。本格的な  
見学会は久々の開催で、さらに、チームには初参加となる  
メンバーも加わり、新鮮な気持ちでのスタートとなりました。

当日は、事前にご予約いただいたお客様や、地域に根差した家づくりに取り組む工務店の  
方々など、建築に関心の高い方が足をお運びくださいました。参加者の皆さんには、森とイ  
エの活動理念についても耳を傾けていただき、よい交流の場となりました。  
現場では、設計を担当した照井さんに、設計の意図や技術的なポイントを直接ご説明いた  
だきました。模型でイメージしていたものが、目の前に立ち上がっていく様子はいつ見てもほ  
んとうにわくわくとするもので、完成への期待が膨らみます。特にH-HOUSEの大きな特徴の  
一つ、1階と2階に設けられた開放的なアウトドアリビングは、今から本当に楽しみです。  
9月上旬にもかかわらず日差しが強く、シートで覆われた建物内部はうだるような暑さに…。  
皆、滝のような汗を流していたところ、  
参加者の方から凍らせたスイカという最高の  
差し入れがありました。「美味しい！」  
「生き返る！」と皆でほおぼり、この日の  
出来事の中でも一番鮮明な記憶として残った  
のでした。  
(新海 写真：野村)



9/3  
Sat

## 完成見学会予告



今夏、全国ネットテレビ  
番組「旅サラダ」の生中継  
で、「フルーツ並みの甘さ！  
黄&白の朝採れとうもろこし」の産地として  
紹介された名寄市。  
建築主はもとより、地域の方々をはじめ多く  
の方々に愛される建築を目指し、皆でつくり  
あげたファームハウスです。(照井)

※完成見学会の詳細はHPにて  
お気軽にご参加下さい！

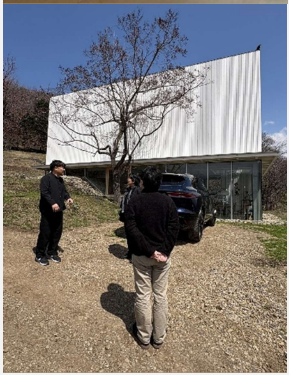
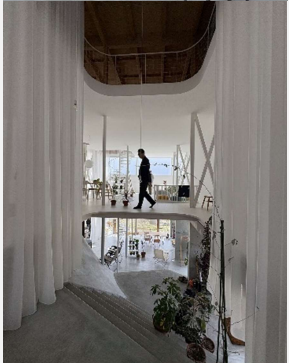


12/13  
Sat



## 仕事場訪問

訪問先  
堀部太建築設計事務所



先日、新築され事務所を移転されたという  
ことで、「森とイエ」のメンバーで堀部太さん  
の自邸兼事務所を訪ねさせていただきました。  
傾斜地に建つその建築は、傾斜から滑り込  
むように続くエントランスから内部に入る  
と、傾斜敷地そのものを取り込んだような、  
不思議な空間が広がっていました。  
エントランスから大地のような床が連続す  
る1階の事務所スペースは、屋内でありな  
がらも、大きな開口によって外と隔てられ  
ていないような開放的な心地よさがありま  
す。底越しの光や心地よい通風が柔らかく  
入り込み、まるでピロティに居るかのよう  
な体感です。  
そこには「ここが玄関」「ここがワークスペー  
ス」といった明確な境界はなく、名前のない  
余白のような場所、気づけば、各々が自分

の居心地の良い場所を自然と見つけて佇み、  
歩いている。建築が「どう使うか」を指示す  
るのではなく、「好きなように過ごしてい  
い」と語りかけてくるような空間でした。  
2・3階の住宅部分も印象的でした。外部  
や事務所エリアに対してはしっかりと視線  
を制御しながらも、内部では光と空気がの  
びやかに巡る。階ごとに空間の性質が変化  
し、閉じ、開き、重なり、繋がる。そのあわ  
いに居心地の良さが生まれていました。  
堀部さんの仕事場には、「建築がどう人を  
包み、どう自由を与えるか」という事への想  
いが息づいていました。ユニークでチャレン  
ジングであり、深く推敲されたその空間に  
触れ、「建築をつくる」という行為  
の面白さをあらためて感じる、  
刺激的な訪問となりました。  
(訪問者 富谷)



## 建築旅行記



今から約20年前、私が建  
築家を目指すきっかけ  
となった建築旅行記につ  
いて、報告させていただきます。2006年3月。大学が  
毎年主催していた建築視  
察に学部2年生の時に参  
加し、ヨーロッパの建築  
を一ヶ月間見て周りまし  
た。一番印象に残ってい  
るのがこの旅行の最初  
に見学した、オランダの建  
築家集団MVRDVが設計  
したオクラホマ（100戸の  
高齢者用住宅）です。土地の広さに制限があり、片持ち  
梁で建物の一部を突き出す事で住戸数を確保しているの  
が特徴の建物です。  
そこに住んでいる人たちの楽しそうな表情や、それぞ  
れのベランダに住民の個性が滲み出るような、いきいきと  
した風景が印象的で、私の知っている高齢者用住宅とは  
違う空気が流れていると感じ、建築家という職業に強く  
感動したのを覚えています。  
この建築を体験して、私もいつか使う人たちがいきいき  
と楽しく過ごせるような、魅力的な建築を作りたいと思  
うようになり、建築家を目指すきっかけとなりました。  
(堀部)

